

はなかに
あそび
あそび

750



明治大学校歌

◇作詞 児玉花外
◇作曲 山田耕筰

1. 白雲なびく駿河台眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘文化の潮みちびきて遂げし維新の榮になふ
明治その名ぞ我等が母校明治その名ぞ我等が母校
2. 権制自由の揺籃の歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり独立自治の旗躰し高き理想の道を行く
我等が健児の意気をば知るや我等が健児の意気をば知るや
3. 靈峰不二を仰ぎつつ刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望ありいでや東亜の一角に時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ正義の鐘を打ちて鳴らさむ

明治大学ハーモニカ・ソサエティーの歴史

我が明治大学ハーモニカ・ソサエティーは、大正7年に故佐藤時太郎氏を中心に結成され、翌8年春、小石川植物園において我が国で最初の合奏が同氏の指揮の下に演奏されました。そして我が国ハーモニカ界の元老川口章吾先生（現在当ソサエティー顧問）を迎えて指揮育成を受け、1年余の準備と練習を積み、第1回発表演奏会が大正9年10月28日、神田YMCAホールにて開催されました。演奏会は絶讃を博して大成功のうちに無事終了し、ここに当ソサエティーは世の中に第一歩を踏み出したのです。当時は国産ハーモニカの種類も少なく、メロディハーモニカ、バリトン、バス、コントラバス、オクターブの5種類に過ぎず、合奏といっても5部合奏程度で、我が国ハーモニカ合奏の黎明期においては止むを得ないことでした。また、この頃明大には校歌がなかったのですが、当ソサエティーの幹部鈴木重吉氏等の尽力により、山田耕筰作曲による現在の明治大学校歌が生まれたのです。大正12年の関東大震災をへて、大正13年頃より、今までの曲に飽き足らず、次第に高踏的なものを演奏すべく半音ハーモニカを併用し、序曲、歌劇等に手を染め初めたのです。そして部員一同監督指揮者の命を良く守り、規律を重んじ、一糸乱れぬ団結の結果、ハーモニカ界において第一人者としての不動の地位を築き上げたのです。その後数度の戦争に際し、危機に直面することもありましたが、音楽に対する情熱と、ソサエティーに対する愛情とにより、ますます発展の一途をたどってまいりました。ハーモニカの種類もいろいろ変り、昭和39年には従来の複音ハーモニカを全廃し、シングル・ハーモニカに変えました。年々、ソサエティーの気風も変遷していますが、長い伝統の重みあるところへ、いわゆる終戦っ子、現代っ子も入部し、新旧の気質が入り混り、そこに現在の輝かしい伝統が形成されつつあります。来春は創立50周年を迎えるわけですが、またそこで新しい出発をしてゆきたいと思っております。



Meiji UNIV

HARMONICA

SOCIETY

第75回

定期演奏会

林久吉先生謝恩演奏会

1968年6月1日(土) 6:00 PM

神田共立講堂



部 長
北 島 忠 男

木々の緑もよそおいを新らたに、初夏の候を迎え、明治大学ハーモニカ・ソサエティーは、今年もまた、春の定期演奏会をもつことになりました。

この春の定期演奏会は、同時に、林久吉先生謝恩演奏会でもあります。われわれハーモニカ・ソサエティーは、昭和7年から昭和41年までの34年間にわたって、林先生に部長として御指導いただきました。この間には大太平洋戦争があり、ハーモニカ・ソサエティーも、その活動を一時中断せざるをえなかったこともありました。林先生の御努力によって、戦後の混迷のなかからいち早く息を吹き返し、今日の盛況をみる事ができたのでございます。このように、ハーモニカ・ソサエティーの歴史とともに歩まれた林先生の永年の御尽力に対して、いささかなりとも感謝の意を表したいと、在校生ならびに卒業生一同が語り合って、この演奏会をもつことになったのでございます。われわれは、この演奏会によって、先生への感謝を表明させていただくとともに、今後の変わらざる御指導をお願いし、あわせて、先生の御健康をも心からお祈りするものでございます。

さて、ハーモニカ・ソサエティーでは、この3月に14名の卒業生を世に送りましたが、4月には33名の新入生を部員に迎えました。本日の演奏会に御来場の皆様におかれましても、どうか、今後ともハーモニカ・ソサエティーの発展を暖かく見まもって下さいますよう、心からお祈り申し上げます。

Message

ご 挨拶

“初夏”を代表するものとして「目に青葉 山ほととぎす 初がつお」という俳句がありますが、この季節は女性が日ごと美しく見え、四季の中で一番すがすがしく、花々が咲きそろう季節ですが、私共部員一同、現在70余名で、音楽の花を咲きひらかそうと連日練習に励げんでまいりましたが、その成果をこの発表会で発表する機会を得ましたことは大きな喜びとするところであります。

今回の演奏会におきまして、第2部『にほんの詩』を設け、皆様と日本人の心の詩を訪ね、共に楽しいひとときを過して行きたいと思っております。未熟な演奏ではございますが、私共の演奏するハーモニカ音楽が、何らかの形で皆様の心にとどまることができれば幸いと思っております。

なお、この演奏会において長年部長として活躍されました、林久吉先生に感謝の意を表する機会を得ましたことは、大きな喜びとするところであります。最後にこの演奏会のために賛助出演して下さいました菅原洋一さん、明治大学混声合唱団の皆様、会場整理にあたって下さいました明大実務珠算部の皆様、御多忙にも拘らず御来場下さいました皆様に心から御礼申し上げます。

明治大学ハーモニカ・ソサエティー部員一同

新緑の候、貴明治大学ハーモニカ・ソサエティー第75回定期演奏会が催されるにあたり、明治大学マンドリン倶楽部一同心からお祝い申し上げます。

ハーモニカ合奏を通じて今の雑然とした生活から少しでも脱し、清い心、豊かな精神をつくり上げることは真に素晴らしいことと思います。音楽の限りない追求と常に学生らしさを失なわない演奏態度は、必ずや多くの人々の共感を呼ぶものと確信致しております。日頃のたゆまぬ練習成果がいかに発揮され、今宵の演奏会が成功裡に終ると共に、なお一層前進され御活躍されんことを心からお祈り申し上げます。

明治大学マンドリン倶楽部

初夏の候、貴明治大学ハーモニカ・ソサエティーが回を重ねて第75回定期演奏会を盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

常に、若々しい情熱を持ち、学生音楽のあり方を追求して止まない貴ソサエティーの演奏は必ずや聴く人の共感を呼ぶものと確信しております。

今後の全日本学生ハーモニカ連盟および、貴ソサエティー発展のため、本日の演奏会のご成功を心より御祈りいたします。

全日本学生ハーモニカ連盟

